

## 1 栽培適地

耐寒性が弱いので、関東南部以南です。家庭での栽培ならもう少し北でも大丈夫です。ただし、高温期間が短くなるので、熟期の遅い在来種はムリです。なお、ときには枝先に冷害を受けることがあります、木が枯れるようなことはありません。

## 3 整枝・せん定

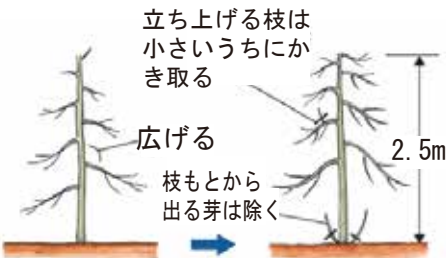
果樹園では『柵井ドーフィン』を一字仕立てで栽培していますが、一般家庭には不向きです。いずれの品種も支柱を1本から3本くらいにし、防鳥や収穫のことを考え、枝は高くしないように誘引し、やや横張りに仕立てるのが無難です。

## 5 病虫害防除

大敵は、枝や幹に食い入って枯らすカミキリムシです。イチジクに寄生するカミキリムシは、キボシカミキリとクワカミキリです。キボシカミキリは主幹や主枝などの太い枝に産卵し、クワカミキリは細い枝に産卵します。成虫は6～10月ころまで発生しますから、見つけしだい捕殺しましょう。なお、産卵できないように、枝や幹にアルミ箔またはテープなどを巻き付けてみるのもよいでしょう。

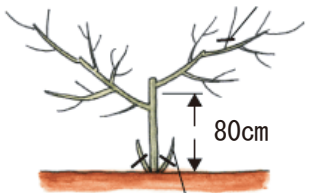
## 7 庭植えの仕立て方

主幹形仕立て  
苗木は高さ70～80cmで切り、植えつける。主幹は1本まっすぐ伸ばし、適度に切り詰めて側枝を出させる



2本の主枝を分岐させ、杯状に伸ばす。冬のせん定で枝先を1/3～1/2切り詰め、わき芽を育てながら延長する

枝が硬くならないうちに水平により下に誘引する  
完成樹形  
上向きの芽は除く



枝もとから出る芽は除く

## 2 結果習性

夏果と秋果があります。夏果は春の発芽と同時に前年枝の先端に育ち、7～8月上旬までに熟します。秋果は春から伸長する枝の葉腋（ようえき）に着果し、8月中旬以降に熟します。したがって、夏果は前年に花芽ができていますので、せん定で枝を切り詰めると実が着きにくくなりますが、秋果は前年枝をどんなに切り詰めても、基本的には問題ありません。なお、夏果は品種によって実着きのよいものと悪いものがあります。

## 4 施肥

日ごろから生ゴミなど有機物を利用して株もとに与えておけば、購入した肥料は必要ありません。与えるとしても、化成肥料を発芽時と枝が伸びた5月ごろに施す程度で十分です。

## 6 鳥害対策

網をかけるのが手っ取り早い方法です。しかし、夏果など実着きが少ないときは、果実がふくらんできたら、袋掛けするのもよいでしょう。

## 8 結果習性とせん定

前年枝をせん定しない場合

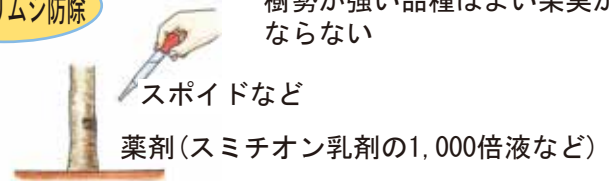
前年枝をせん定する場合



夏果が比較的着く品種で夏果をつけたい場合

前年枝を切り詰めると夏果は着きにくい、秋果は結実する。ただし、在来種のように樹勢が強い品種はよい果実がならない

## 9 カミキリムシ防除



虫糞を見つけたら、幹穴にスポイトなどで殺虫剤を注入し、木の枝でふさいでおく。2～3日後、糞が出ていなければ効果あり